

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

2016年 **春** 号

HEARTFUL

はーとふる

愛知県・名古屋明社

連載 『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』活動紹介

連載 未来を創造する子どもたち

第5回 子どもへの暴力を防止する

被災地レポート「わすれない、いつまでも」

第8回 宮城県南三陸町のいま

応募作品は審査委員会が選考し、12人の役員によって各賞が決まります。そして、毎年10月の最終日曜日に、名古屋教育センターで表彰式と発表会を開催。すべての受賞者が舞台上で表彰状と記念品とメダルが贈呈されることから、



受賞者に渡される感謝状や記念品など

名古屋を明るくする会 会長
大野重忠さん
実践体験文は特別なことを書くのではなく、普段やっていることがどんな影響を与えるか再発見するものです。書くことによって、自分自身や学校生活を見つめ直すことができるので、とても有意義な体験となります。心を痛める事件が多発する毎日ですが、実践体験文を通して、少しでも社会と関わり、人間らしい生き方、自分から進んで人のためになろうとする努力を培ってもらいたいと願っています。明るい社会の核は家庭であり、地域です。これからも地域と学校の連携を図る運動体を目指していきます。

関連記事12頁

「われら明社人／大野会長の寄稿文」

『明るい社会づくり実践体験文』には、毎年、多くの子どもたちが応募されています。その作品の中には、「笑顔で人が集まるまちを築いていきたい」「会話を通して、周りの人とのつながりを深めていきたい」など、子どもたちが、明るい社会づくりのために人がつながり合い、人や社会のためにできることを考えて、実際に行動につながれたことがよく伝わってまいりました。

名古屋市教育局 教育長
下田 一幸さん

受賞者の保護者と学校の先生、名古屋明社の会員が多数参加する催事となっています。特筆すべきは応募に功績のあった小中学校に感謝状を贈呈することです。第30回では4人の校長が表彰されました。フィナーレは、小学生部門と中学生部門で、それぞれ会長賞と市長賞を受賞した計4人の実践体験文の発表です。会場は大きな拍手が沸き起こりました。毎年、後援を担う名古屋市教育局委員会は、各賞受賞作品が全文掲載された『実践体験文集』に教育長の言葉を寄せ、同事業の意義を讃えています。

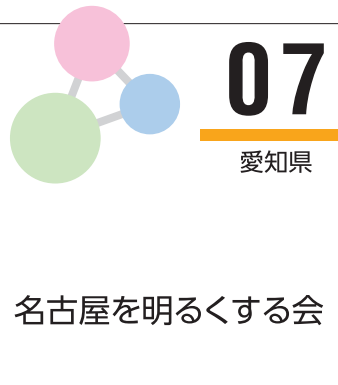


発表会・表彰式において表彰される受賞者

連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』

地域の学校、教育機関、企業等と青少年の育成に取り組む地区明社があります。愛知県の名古屋を明るくする会（大野重忠会長／以下、名古屋明社）です。昨年10月25日、名古屋市教育局で開催した『明るい社会づくり 第30回実践体験文表彰式・発表会』等の事業を紹介します。



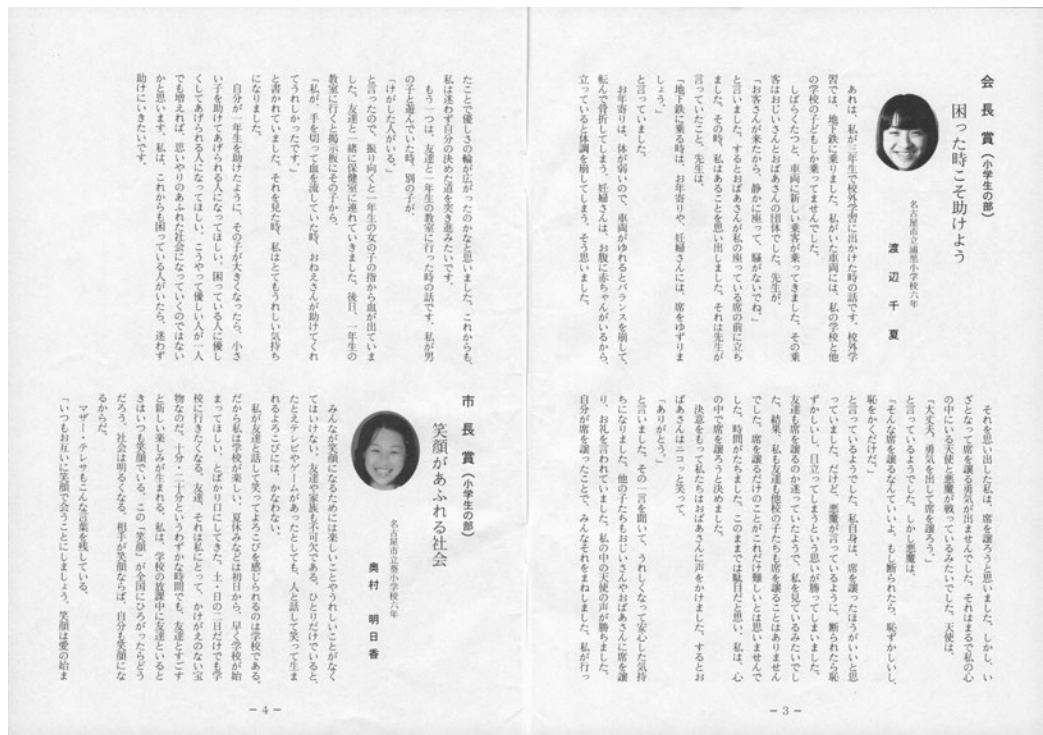
名古屋市内の全小中学校に募集

名古屋明社が、毎年、愛知県内に居住する小・中学生を対象に実施する『明るい社会づくり実践体験文』の題は自由。自らが善意の心で活動したことで、学校や地域社会、そして自らからも明るくなった実践体験を書くものです。

昨年の第30回には192校から1815件もの体験文が寄せられましたが、募集活動は4月の名義使用申請から始まり、各賞を提供するのは次の行政・法人等です。《名古屋市、名古屋市教育局委員会、中日新聞社、三菱東京UFJ銀行、名古屋鉄道、CBC放送、東海テレビ放送、中部善意銀行》

5月からは24人の推進委員と各区の有志若干名が手分けして、名古屋市内の全小中学校（367校）の学校長宛に募集願いを配付。7月末には応募作品が事務局に届けられます。

だれもが楽しく過ごすことができる社会のために、子どもたちが地域の人とつながろうと取り組んでいる姿は、私どもといたしましても、大きな喜びであり、大変心強い限りでございます。



※「明るい社会づくり第30回実践体験文集」より抜粋転載

第5回

子どもへの暴力を防止する

10代のカップルの3組に1組で起きているといわれる「デートDV(恋人間の暴力)」をご存知でしょうか。身体的暴力だけでなく、朝起きてから寝るまでの行動を報告させたり、学校のトイレから裸の画像を送るよう命じたり、さらには携帯を使って「別れたら死ぬ」と脅すケースもあるそうです。

小学生から大人まで、多岐にわたるプログラムを提供し、その予防と啓発に取り組む『認定NPO法人エンパワメントかながわ』の阿部真紀理事長にお話を伺いました。



デートDV110番周知ポスター(左)やデートDV啓発用リーフレット



CAPのワークショップを、2006年度には800回以上実施してきたEKは、2007年、横浜市と協働で『デートDV予防啓発用リーフレット』を作成。同年、内閣府の委嘱を受けた横浜市に協力し「デートDVについての意識・実態調査」を実施したところ、高校生男子の13%、高

私が「デートDV」という言葉を初めて知ったのは2003年10月の新聞記事です。10代のうちに「デートDV」を予防・啓発することで、結婚後の暴力や子どもへの虐待などへの負の連鎖を断ち切ることができると思い立ち、高校生向け予防プログラムの開発を始めたのです。

2000年の児童虐待防止法、2001年の「DV防止法」(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)と、日本では徐々に暴力に名前が付き、ノーと言えるようになりました。

予防プログラムを開発

エンパワメントかながわ(以下、EK)は「暴力のない社会の実現」をミッションに2004年4月に始動。CAP(Child Assault Prevention)という米国で開発された「子どもへの暴力防止プログラム」の提供を主に活動を展開し、同年9月にNPO法人格を取得します。

EK始動前から「CAPスペシャリスト」として、子どもへの暴力防止に取り組んでいた阿部さんは「デートDV」の実態を知り、予防プログラムの開発に取り組み始めます。

愛知県の留学生も支援

名古屋明社がもう一つ高い評価を受けているのは、内部組織「留学生交流友の会」を擁し、外国人留学生を支援していることです。毎年、愛知県留学生会後援会に奨学資金を贈呈し、留学生交流見学ツアーや新春留学生交流懇親会を実施しています。その活動の意義を福井一男事務局長にお聞きしました。

名古屋を明るくする会 事務局長

福井一男さん

いま、日本の大学で学ぶ留学生は18万人に達し、愛知県下では6千人以上の人が大学で学んでいます。母国とは、国情・文化・伝統の異なる留学生とお互いに理解と友情を深めることが、私たち下町外交官として有為な活動につながると考え、活動しています。その主は緊急援助金として毎年100万円以上の奨学資金の贈呈です。この尊い多額な資金は会員の会費です(1986年からの贈呈累計額71,427,219円)。

日本での留学生生活は、言葉の壁や慣習の違いがあり、思いを伝えるには日本人の何倍ものエネルギーが必要でしょう。ストレスが溜まり、長い留学生生活が頓挫する事態も起こることでしょう。そんな時、少しでも力になってあげることができれば、素晴らしいことだと思います。



福引きもあり、盛り上がる新春懇親会



留学生交流友の会 会報「なかま」



大好評の交流見学ツアーは毎年各地で行われる

これからの様々な事業を通し、相互理解と友好親善を深め、世界中に善き友を増やしていきたいと願っています。

これからの明るい社会づくり運動・3つの方針

— 2014年の『全国都道府県会議』で発表した、本運動がこれから目指していく具体的な3つの方針 —

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

これら方針に基づく活動を今後も紹介していきます。